

令和7年度第2回広島市いじめ防止対策推進審議会会議要旨

1 開催日時

令和8年3月25日（水）18時30分～20時30分

2 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

3 出席者

(1) 審議会委員 5名

会長 間瀬 茂夫（広島大学大学院人間社会科学研究科 教授）

副会長 寺本 佳代（広島弁護士会 弁護士）

森川 早苗（広島県臨床心理士会 臨床心理士）

清水 克之（広島県社会福祉士会 社会福祉士）

花本 浩（元広島県警察本部生活安全部長）

(2) 事務局（広島市教育委員会）

いじめ対策推進担当課長、生徒指導課職員

(3) 傍聴人 0名

4 議題等（公開・非公開の別）

(1) 令和7年度のいじめ防止等の取組状況について（報告）（公開）

(2) 令和8年度の取組の方向性について（公開）

5 会議資料

(1) 次第

(2) 配席表

(3) 資料 令和7年度 広島市におけるいじめ防止対策等の主な取組について

6 会議の要旨【○委員 ●事務局】

(1) 令和7年度のいじめ防止等の取組状況について（報告）

○ タブレットのホーム画面にアイコンを追加したとのことだが、追加してから相談はあったか。

● 令和6年度に追加した24時間相談できる窓口は、全国どこからでも相談できる仕組みで、相談の際に出身地等を入力する必要がない仕様のため、広島市からの相談件数は把握できていない。

● 今年1月に追加したアイコンは、電話相談窓口等を紹介するカードやポスターを掲示している本市のホームページにつながるもので、アクセス数はかなり増えている。

○ いじめ対策推進教諭は、どの学校に定期訪問しているのか。

● すべての市立学校に定期訪問をしている。

いじめ対策推進教諭は8名おり、各学校を回って、学校の取組状況の確認、校長への助言を行っている。

○ さまざまな取組をする中で、いじめが改善したのかどうか、件数として把握されているのか伺いたい。

● 認知件数は、令和2年度が3,620件、令和3年度が3,751件、令和4年度及び令和5年度が3,923件、令和6年度が4,564件となっている。

認知件数が増えることは、いじめの見逃しが減っていることや、子どもたちがSOSを出せている成果と捉えている。まずはいじめの見逃しゼロを目指している。

- 学校によって件数に差があると思うが、特定の学校が気になるということはあるか。
 - 学校によって認知件数の多い少ないはあるが、むしろ認知件数が少ない学校については、見逃しが無いか確認するようにしている。

 - 学校や教育委員会として、解消したと判断している件数はどの程度か。
 - いじめの解消については、加害行為が止み、その状態が三か月以上継続していることを基準としている。年度末時点では、おおむね75パーセント程度が解消と判断しており、残り25パーセントは、そのほとんどが三か月を経過していないものである。

 - いじめを受けた側が転校するケースがあるが、改善する方法はないか。
 - 被害児童生徒を守ることを最優先にし、特別な指導、複数体制での見守り、学級編成の配慮など、個別の事案に応じた対応を行っている。

 - SNSやAIなど、新しいタイプのいじめについて、最近の傾向はあるか。
 - SNS上でのやり取りのスクリーンショットを拡散するなど、SNS特有の事案は見られる。端末の普及に伴い、学校内で起こる新しいタイプの事案についても注視している。

 - スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの位置づけについて説明してほしい。
 - 具体的な取組として明記していないが、学校内のいじめ防止委員会等において、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して対応している。
- (2) 令和8年度の取組の方向性について
- 令和7年度の取組との違いについて説明してほしい。
 - 令和8年度の取組の方向性については、基本的には令和7年度行った取組を継続していくというのが主な内容になる。
その中で、これまでハンドブックや学校実践編を作り続けてきたが、来年度以降は新たなものを作るというよりも、これまでに作成したハンドブックや学校実践編を活用していくことに力を入れたいと考えている。
学校実践編のIからIV、それからハンドブックについて、生徒指導主事などを対象とした研修の中で積極的に紹介し、各学校に持ち帰ってもらい、学校でできそうな実践をどんどん広げてもらいたいと考えている。

 - 情報引継について、保管方法を含めて考えるとあるが、具体的にどのように変えていくというイメージがあるのか。
 - 学校によって、引継ぎシートの保管方法は様々である。職員が取りやすい場所に置いている学校もあるし、機密性を重視して校長室で保管している学校もある。
紙で手書きしたメモと一緒に保管している場合も多く、すべてをデータ化するのは学校の実情として難しい面もある。
見やすさと安全性の確保を両立できている学校の事例を収集して、紹介していきたいと考えている。

 - いじめ予防の好事例だけでなく、起きてしまったいじめの回復の好事例も集めて、時間をかけて実践情報の共有ができればいいと思う。
取組の方向性というのは、毎年毎年変えるものではなくて、大きな方向性を維持しながら改善していくものだと思っている。